Follow up

会長の時間 20－“百舌鳥耳原由来の像”について

本日の会長の時間は、堺市観光局勝間部長様の卓話に因み、関連する当クラブの奉仕事業にまつわるお話をお聞き頂きます。
仁徳天皇陵案内板が堺 RC 他 7 クラブで現行の物を寄贈し、現在補修準備中である事はご報告の通りですが、この案内板のすぐ近くにもう一つ、当クラブ単独の寄贈物があります。案内板と御陵通を挟んで向かい側にある“百舌鳥耳原由来の像”です。

昭和 51 年に堺 RC が創立 25 周年を迎えるにあたり記念事業として、岩田千虎（かずとら）先生が制作されたこの像を、ご遺族から堺RCで譲り受け、ロータリーの森と言う植樹共に堺市に寄贈したものです。
これは、表示板の解説にもありますが、仁徳天皇陵の工事作業員を助けた鳥モズの勇ましい働きを称えて、この地を『百舌鳥耳原』と呼ぶようになったと言う日本書紀由来のエピソードを彫像にしたものです。
　日本書紀によると、仁徳天皇が当地で陵の工事をはじめられました。その時、野から鹿が走り出て、工事をしている人をめがけて突進してきましたが直前でその鹿が倒れてしまいます。不思議に思ってその鹿を調べると、鹿の耳から『百舌鳥』が飛び立ったそうです。鹿の耳の中はモズに食い割かれており、工事人の危ないところをモズが助けた訳です。
　一つどうしても引っかかる点があります。鹿というと春日大社などでは「神の使い」で神聖なもの、だからモズが鹿を食い殺す、この点どうも腑に落ちません。正しいかどうかは知る由もありませんが、面白い仮説がありました。
　鹿は「狩猟民族の象徴でもあった」のではないか？
仁徳天皇の本名は“おほさざぎ（大鷦鷯）のすめらみこと”、「鷦鷯（さざき）」とは「ミソサザイ」という鳥の名前だそうです。モズが鹿を食い殺すというのは「鳥…つまり大和朝廷が、鹿…つまり狩猟民族である蝦夷や新羅を食い殺す」という意味があったのではないかとの仮説です。それで、モズが鹿を殺した事を「大和朝廷発展の吉兆」と考えたとすればこの寓話の成り立ちも納得がいきます。
　いずれにせよこのモズの勇ましい働きをたたえて、この地を『百舌鳥耳原』と呼ぶようになったと記されています。ご存知の通り、その鳥モズは、大阪府と堺市の府鳥・市鳥に指定されています。
　さて作者の岩田千虎先生に少しだけ触れておきますと、明治 26 年熊本県に生まれ、大正から昭和にかけ大阪府立農学校教諭、大阪府立獣医畜産専門学校教授、昭和 22 年大阪府立浪速大学(現、大阪府立大学)獣医科講師、同家畜病院長、同 24 年同校を退職して、ご自宅で岩田家畜病院を開業します。
その間、昭和 8 年第 20 回二科展に出品して初入選し、ついで北村西望（長崎の「平和祈念像」に代表される文化勲章受章者の彫刻家）にも指導を仰ぎ、昭和 9 年第 15 回帝展に石膏像「牡牛」が初入選し、以来帝・文展を通じ 10 回連続入選。日展会員はもちろん、審査員も務めています。戦前戦後と多数制作していますが、身近なところでは、昭和 33 年に、第一次南極観測隊の際、南極に残留したカラフト犬タロー、ジローを彫って話題となります

が、堺大浜公園の南極探検カラフト犬15頭慰霊像も岩田千虎の作品です。

1966 年 10 月 6 日堺市の自宅で脳卒中のため死去しました。享年 72 才でした。
本日は、勝間部長様のお話に因み我がクラブの奉仕事業の一端とその派生話をお聞き頂ました。

本日はこれにて。おやかましゅうございました。

2020 年 11 月 26 日第二十例会 会長の時間にて　東　野　裕　暢